



TITLE:

パークハースト教授 (京都大學天文
臺新館記念)

AUTHOR(S):

バレット, S B

CITATION:

バレット, S B. パークハースト教授 (京都大學天文臺新館記念). 天界
1925, 5(55): 282-286

ISSUE DATE:

1925-07-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160271>

RIGHT:

パークハースト教授

(Prof. J. A. Parkhurst)

ヤーキース天文臺教授 S B バレツト

『一つの事をするのに、悪い道は一千もあるが、正しい道は只一つしかない。』

パークハースト教授を知る者は誰でも教授の時々のかうした言ひ草を思ひ出して微笑まなひものはない。此れは彼れの品性の基調であつた。彼は一生懸命に此の正しい一筋道を見出さんミ力め、そして其の道を充分に見出した時は徹底するまで彼れは實行した。かうした行き方は彼れの日常行爲に明らかに見えてゐた。彼れの手帳は整頓ミ正確ミの模範であり、彼れのカード目録は豊富であり、又、論文は簡結、明晰であつた。彼れは何事にもあれ注意深い考察をしたあミでなければ意見を吐かなかつた。

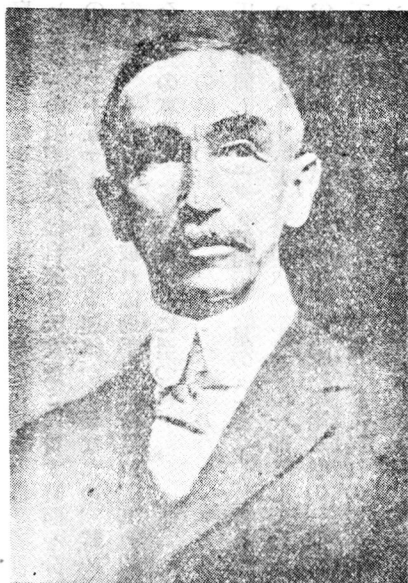
正確ミ精密ミに對するかうした熱情は、亦、彼れの片手間ミも言ふべき教會の仕事や自働車の運轉ぶりにも現はれてゐた。教會や日曜學校の仕事が下手に行はれてゐるのを見てゐては心捧し切れず、彼れは寧ろそれに自分が手を下し、其のために甚だしい苦勞を厭はなかつた。彼れの自働車には汚點

がなく、一時間二十マイルの速力を安全に出し続け、好い道路では時々大速力に躍進することも出来た。バネは決して弱らずラヂエーターは決して凍らず、長い道のりにもガスは決して消盡されず、かうして彼れの自働車は隣り近所一體が御世話になる大切なものであつた。彼れか或る日、新しい型のを買ふ（これが彼れの唯一度の奢りであつた）ために今まで古い自働車を賣りに出した時、附近の人々は其の古車を買ひ取りたいミ望んだ、何故ミ言ふミ、彼れの注意深い使用によつて車は前より一層良くなつたことを皆能く知つてゐたから。

かうした理智の命するがまゝに、何をするにも同様な堅實さが毎日の行爲に見えた。彼れの食事は簡單で、獨特で、従つて一般の晚餐會むきでは無いが、決して友人にすゝめられて、自分が定めた以外の一皿も取ることをしなかつた。およばれには喜んで招かれたけれど、彼れは常に好いテサートの小さな包みを持參することを忘れなかつた。他人の薦め、主

張、嘲笑は彼れを屈せなかつた。

子供の頃の病身時代に（多分、結核關節で杖をついてゐた頃）もの靜かな此の若者が思ひつめた末、友人たちの眞似をして體力を浪費すれば生涯を誤るに至るゝ知り、その後は自身の取るべき道を定めて、決して其れを忘れなかつた。



故バークナー・スー教授

このジョン・アデルバート・バークハーストは一八六一年の九月二十四日、イリノイ州デクソン市で、サンフオド・バークハースト夫妻の間に生れた。彼れの五歳の時、母の死に會ひ、同州マレンゴ市に往む伯父アブナー・ハガー夫妻の家に引き取られ、其所で公立學校を終へ、一八八〇年の末、ホ

キートン・カレッジに入學した。その二年級を卒へて、一年間ロンバードの公立學校に教師となり、その後三年間ローズ工學院に勉強して、一八八六年に機械工學のバチエラーの學位を得て卒業した。一八九七年にはマスターの學位を得た。一九〇六年にはホ井ートン・カレッジから、一八八五年の卒業生としてバチエラー學位が贈られた。

ローズ學院卒業後、そこに二年間は數學の教師として止まつたが、伯父の死んだ後はマレンゴに歸郷を余儀なくされた。一八八八年、彼れはテル・ホートのアナ・グリーンリーフ嬢と結婚し、一九〇一年には一人の小兒が生れたが、不幸にして幼逝した。

そのうちに、天文學の興味が彼れに起つて來た。始めは、かのバーナード教授を始め多くの人を感奮させたトーマス・デイクの著者を讀んで星を知つたのであるが、ローズ學院にゐる頃、小さいレンズを一つ買ひ、其れに筒を作つたりした。此の望遠鏡は、マレンゴに居る時買つた六インチ反射鏡のフアインダーとして今でも使用されてゐる。マレンゴの家では家業ため可なり忙しかつたけれど、彼れは其の望遠鏡で眞面目な觀測を始め、主に變光星に意を注ぐことゝなつた。彼れの天文報告文は、一八九三年の「天文學と天體物理學雜誌」に載つたものが最初であるらしい。其の後十年間、五十ほどの報告論文が連續的にポピュラー・アストロノミヤアストロノ

ミカル・ジャーナルやアストロノミシエ・ナハリヒテンなどの雑誌に現はれてゐる。

彼れが天文學に更に多大な勢力を注ぐに至つた機會は、一八九七年の末、其の郷里から數マイルの近距離にヤーキース天文臺が開かれた時であつた。一八九八年の夏中、彼れは志願研究員に任命され、十二インチ屈折機で夜間の觀測を許された。その頃、彼れは自家ミ天文臺に費す時間を分け、其の距離二十五マイルを、汽車連絡が不便なため、時々馬で往復した。一九〇〇年、彼れは助手に任命され、其れ以來は、全然此の専門學に身を獻けるに至つた。

彼れの最初の研究は、G・E・ヘール及びF・エラーマン兩氏と協同した「セツキ第四型の星のスペクトル」であつて、之れはヤーキース天文臺出版物第二卷の一部として發表され、尙又、シカゴ大學創立十年紀念論文集第八卷の一部にもなつてゐる。彼れがヤーキース天文臺へ來て最初の數年間はワシントンのカーネギー學團なごから天文臺へ寄附された特別資金によつて研究をやつたので、一九〇六年には其の學團が彼れの『一八九四年より一九〇六年まで主としてヤーキース天文臺で行つた天體光度の研究』といふ一九二ページの四つ切り版を出版した。此の出資が終つた後、パークハースト氏はシカゴ大學教師として天文臺の常員となり、一九一二年には助教授となり、一九一九年には觀測天文學の員外教授に昇任

した。

今一つ重要な論文は『ヤーキース光度學』アシタライトといふ表題のものである。之れは一九一二年に天體物理學雜誌に載せられ、北極から北緯七十三度に至る間の七等半以上の總ての星について、寫真光度ミ眼視光度、色指數及びスペクトル分類の觀測を含んでゐる。

ハーブード、ブーヅニア、リク、ヤーキースの各天文臺が協力して、微光星の光度を、既に良く知られてゐる大きい星々と比較觀測する計畫が熟した時、パークハースト氏はヤーキースを代表し、ラムフォード分野^{フィールド}として選ばれた星空二十四部分にわたつて星の眼視光度の測定を一九〇〇年に始めた。

此の事業は始めラムフォード資金からの補助によつたものであつて、遂に一九二三年、アメリカ文理學士院紀要の第十四卷第四號に發表された。此の書の中に載せられた三十六ラムフォード分野の見事な寫眞は全くパークハースト氏の仕事である。

パークハースト氏は又A・S・ヤング教授と協力して、グチカン天文臺長J・G・ハーゲン師の出版した變光星アトラスの附録第十二號の製作に盡した。

その晩年、三度び日食觀測の遠征隊に加つたが、彼れは其のうち只一回、今年の一月二十四日のにだけ、常に晴れた空を與へられた。初めの二回は即ち一九一八年六月にワイオミング州グリーン・リバーへ、一九二三年九月にカタリナ島

へミ、ヤーキース天文臺から派遣されたものである。かうした場合にも——幾週日も準備したことが僅か一、二分間の短かい間に實行されるまいふたちの仕事で、それこそ一秒時も延期し難く、又、繰り返されない、此の大切な一瞬間に、人の心は時には行り損つて、レンズの蓋を取り忘れたり、寫眞板の蓋を取り誤つたり、時間割を早く又遅くし損じることもあるのだが、——パークハースト氏を知る人は誰も彼れが準備に不足したり、器械の設備も行き届かず、總てに手落ちがあつたりしないか心配しない。雲が觀測を妨けた時にも彼れは騒がず、器械は取り外し、荷作りし、送り返し、又、荷を解く、——そして次ぎの時まで、こいふ風。かの一月二十四日の朝、コーネル大學での零下(華氏)こいふ寒い温度の時に、彼れのために遂に機會が來、彼れは最善の努力をした。天文臺へ歸つて來てから、かのくせあるユーモアをもらしながら、「之れが總ての觀測結果」言ひつゝ、吾々に見せた、それは、全く白紙の小さなカード一枚であつた。イサカでは空は晴れてゐたことを知つてゐる吾々は皆勿論失望した。此の日食の時、わが天文臺からの他の人々は雲に妨げられ、従つて、一九〇一年バーナードが世界を半週してスマトラへ出かけて以來ヤーキースの日食遠征には常も不幸がつき纏つてゐて、大事な時に雲のために馬鹿にされる運命が、今も尙吾々から離れないのかと思はしめた。しかるに、よくよく檢べ

て見るに、此のカードには十個以上の小さなピンの跡、即ち彼れがコロナの明るさの測定に成切した記録が現はれてゐるではないか!!

彼れが一九〇〇年ヤーキース天文臺に關係するやうになつて以來、パークハースト君は、前に述べたものゝ外に、毎年大論文一つ、小論文一つ、紹介文一つを發表した。尙又、カプタイン分野のこいふ名の下に故カプタイン教授の撰定した二十四分野に含まれる一千五百個の星の寫眞光度と色指數の重要な觀測が完成せずに残つてゐる。しかし、觀測は全部出來上り、豫備的計算は終つてあるので、此の研究も近い内に出版される筈である。

勉強のためにヤーキース天文臺へ來た人々の大多數はパークハースト君の下で主題を撰ぶ。此の人々は彼れが専門事項に博い智識を持ち、それを教へる稀な天才の教師であることを知る。又、彼れは其の専門に必要な精密器械の取り扱ひの熟練者であつた。

彼れは身體が弱かつたけれど、それでも、肉體と精神とを巧みに維持したがために、一人前以上の仕事をし、殊に、疲勞の激しい夜の觀測なきにも左様であつた。いかなる短時間も浪費されず、長い休暇にボンヤリ日を過すことは無かつた。最も長かつた休暇は、夫人と共に歐洲に渡つて、ポツダム天文臺に研究のため費した六ヶ月であつた。今一回、パークハ

ースト夫婦は休暇にフロリダへ出掛けたことがあつたが、その時も彼等は天文計算材料を持つて行つた。

パークハースト君は、長く、ローヤル天文學會や大英天文協會やドイツ天文協會や米國天文學會の會員であつた。彼等は二年間、村を代表して、郡の監督局に出たことがあり、又村のために、いろいろ善い働きをした。

パークハースト君は去る二月二十七日の朝、突然、腦出血を起し、三月一日其のホームで死んだ。その整つた立派な一生にふさはしい簡結な儀式の後、其の遺骸は知人朋友に護られながらミルチーキー市へ火葬のため送られた。(山本譯)

山本曰く。

パレット教授もパークハースト教授と同様、ヤーキース天文臺の殆んど創立當初からの臺員であります。そして、天文臺をめぐる廣い芝生の上に、まばらに多くの臺員たちの宅があります、がパークハースト宅とパレット宅とは特に近く、正面に向ひ合つてある關係上、此の二家族の間の交際が、最も親しいやうに、私には思はれました。右の文にもある通り、パークハースト教授の自働車に最も多く御厄介になるのはパレット家族で、次ぎがゼン・ピースブルク家なのです。

三二

●天文講習會 来る八月十一、十二、十三の三日間、長野縣上高井郡須坂町小學校で左の講習會が開かれる。詳細は同校の宮川周治氏に問ひ合はせられたし。

「教育的天文學」

京大教授理學博士 山本 一 清氏述

一、地球(天文學上より見たる)

イ、形狀。球形証明(出船入船、旅行、月食、天頂星)、橢圓體。

ロ、自轉。速度、日週運動、時刻、經度、日時計の作り方。

ハ、公轉。橢圓軌道、平均距離、速度、太陽の運動、黃道、季節。

ニ、質量。太陽の分數、絕對質量(山の引力、孔、ねち秤)

二、太陽系(一の王國として)

イ、寸法。形と距離との關係。

ロ、軌道模型の製作法。

ハ、比較天體學。(太陽、大遊星、外遊星、地球遊星、内遊星、

小遊星、彗星、流星)——種々の珍世界。

ニ、宇宙運動。運動の研究法、軌道系への影響。

三、恒星界(一の社會として)

イ、天球。地球との對照、認識上の方便。

ロ、星座。古の用途、今の用途、教育的効果。

ハ、光の色。天界よりの無線通信。

ニ、スペクトル。(天體分類學)。運動、視差、進化論法。

ホ、距離。直接測量法、間接測量法、大小相關々係。

ヘ、宇宙の構造。人誰でもの問題。

以上